



社会保険労務士法人柳澤会計Support Letter

トピックス！ ライフシフト ~100年時代の人生戦略~



私たちは本当に100年も生きるのか

「ライフ・シフト」という本をご存じでしょうか？2016年に発売されても今なお、アマゾンの総務・人事・労務管理の労働問題カテゴリー売れ筋ランキング第1位、累計40万部超の大ベストセラーの本です。

「2007年に生まれた子供は50%の確率で104歳まで生きる」。グローバル化とテクノロジーの進化により、今後100年生きる人生をもたらすことが当たり前になってきます。

100歳まで生きることが珍しくない時代が到来し、ほとんどの人はこれまでよりかなり長い年数働かなくてはならなくなります。人生が長くなれば老後の生活資金、個人の生き方や、社会のあり方に及ぼす影響が変わるということを多角的に論じている本です。

20歳前後まで教育を受け、60歳までバリバリ働き、その後は引退して余生を楽しむ。多くの日本人がこうした3ステージの人生を想定してたと思います。ところが、これからはこのような**人生の3ステージモデルは成り立たなくなる**ということです。

■3ステージ（教育・仕事・引退）

- 祖父の世代は65歳で引退し残りの8年を貯蓄で生きればよかった
 - 100歳生きる世代は同じ前提条件なら20年長く働かなくてはならない
 - 公的年金、企業年金が受け取れない可能性もある
 - 同じ仕事を続けることは現実的ではない
 - ほとんどの人はこれまでよりかなり長く働かなくてはならない
 - 仕事はテクノロジーに代替され、新たな仕事のスキルを覚えなければならない
- この本で最も重要なポイントは、「3ステージから脱却し、マルチステージの人生を歩もう」ということです。

■これまでの人生

○ルールモデルあり。同世代で一斉行進の人生。



■これからの人生

○ルールモデルなし。年齢とステージは関係なし。

人生の多様化。無形資産が重要。

働きながら他でも学んでいく時代



これからの人生には、仕事と引退の間にステージ4が入ってきます。

寿命が伸びる⇒働く期間が長くなる⇒貯蓄の重要性が高まる

3ステージ時代は、引退の期間が短かったので仕事（約40年）の期間を活用して、引退（10年～20年）の時期を過ごすための資金を貯めればよかったわけです。

■今後は、より長く働くことが必要になる

人生が20年伸びるので、貯蓄の重要性が増し、それに合わせた資金計画をする必要があります。長い余生を、年金や貯金だけで賄うのは難しく、より長く働くことが必要になります。

■適切な資金計画を立てる

- 生活のためにどれくらいのお金が必要か
 - 何歳まで仕事を続けたいか
 - 自分の金銭面の状況をどの程度把握しているか
 - 自分はどれくらいの金融知識を持っているか
- 金銭的資産の形成を助ける3つの無形資産**
金銭的資産の形成を助けてくれるのが、3つの無形資産です。

①生産性資産

主に仕事に役立つ知識やスキル

②活力資産

健康や良好な家族・友人関係

③変身資産

変化に応じて自分を変える力
（自分をよく知っている・多様性に富んだ人的ネットワーク・開かれた姿勢）

まとめ～100年ライフで何が変わるのか～

長寿化時代に人生のあり方は根本から変わります。「100歳まで生きるとして、勤労時代に毎年所得の10%を貯蓄し、引退後は最終所得の50%程度の資金で毎年暮らす場合、何歳で引退できるか？」この場合80代まで働かなくてはなりません。100年ライフの備えは、金銭面と非金銭面（スキル・健康・人間関係）のバランスが必要。寿命が長くなり「3ステージから脱却し、マルチステージの人生を歩もう」というのがポイントです。



マンスリーピックアップ

新しいNISA、はじまります

■NISAとは

通常、株式や投資信託などの金融商品に投資をした場合、これらを売却して得た利益や受け取った配当に対して約20%の税金がかかります。

NISAは、「NISA口座（非課税口座）」内で、毎年一定金額の範囲内で購入したこれらの金融商品から得られる利益が非課税になる、つまり、税金がかからなくなる制度です。

■iDeCoとは

iDeCoとは、非課税投資制度の一つで、私的年金です。掛け金が全額所得控除されて、運用益には課税されず、受け取り時にも退職所得控除や公的年金等控除が適用されるので、民間の生命保険会社の「個人年金」と比べ税制メリットがとてもあります。

例) 年収650万円（所得税率20%）の人が、毎月2万3,000円の掛金を拠出する場合と生命保険との比較

①生命保険

年間掛金2万3,000円×12ヶ月=27.6万円

年間控除額 所得税が年間最高4万円

住民税が年間最高2.8万円

年間節税効果 **1万800円※1**

②iDeCo

年間掛金2万3,000円×12ヶ月=27.6万円

年間控除額 27.6万円（掛金が全額所得控除）

年間節税効果 **8万2,800円※2**

⇒**生命保険と比べて圧倒的な節税効果**

※1 計算方法：4万円×20%（所得税率）+2.8万円

×10%（住民税率）=1万800円

※2 計算方法：掛金は全額所得控除のため、年間掛金の27.6万円×（20%所得税率+10%住民税率）=8万2,800円

■つみたてNISAと一般NISA

NISAは運用期間が5年と比較的短期間で、120万円という大きな非課税投資枠となっています。

反対に、つみたてNISAは、20年間運用できる代わり

に、年間上限投資可能額が40万円です。2024年からNISAとつみたてNISAは新制度へ移行し、非課税期間が無期限となります。

NISAとiDeCo、それぞれとても良いので、「どちらも使う」というのが一番です。なお、会社に企業型確定拠出年金が導入されていれば、基本的にiDeCoに加入する必要はありません。

現行NISA	つみたてNISA	一般NISA
対象者	18歳以上の方	18歳以上の方
利用限度額	40万円/年	120万円/年
対象商品	金融庁が定めた基準を満たした投資信託	日本株・外国株・投資信託・ETF等
非課税期間	投資開始から 最大20年間	投資開始から 最大5年間
投資可能期間	2023年まで	2023年まで
運用管理者	本人	本人
払出制限	なし	なし
金融機関の変更	年単位で変更可能	年単位で変更可能

つみたてNISAは毎年40万円まで新規投資が可能で非課税期間は20年です。一方、**一般NISAは年間120万円まで新規投資が可能ですが非課税期間は5年**です。

新NISA	つみたて投資枠	成長投資枠
	併用可	
対象者	18歳以上の方	18歳以上の方
利用限度額	120万円/年	240万円/年
生涯利用限度額	1800万円（うち成長投資枠は1,200万円まで）	
対象商品	金融庁が定めた基準を満たした投資信託	日本株・外国株・投資信託（投機的なものは除外）・ETF等
非課税期間	無制限	
投資可能期間	2024年以降	
運用管理者	本人	
払出制限	なし	
金融機関の変更	年単位で変更可能	

新NISAは**年新規投資可能金額が120万円まで**と大幅に大きくなり、**非課税期間が無期限**となります。現行NISAの一般NISAが成長投資枠となり、年間新規投資可能金額が240万円となって非課税期間が無期限となります。



日中はまだ暑い日が続いていますが、少しだけ日が暮れるのが早くなってきましたね。先日発表された気象庁の3か月予報によると、今年の秋は全国的に高温傾向で残暑が長引く見通しだということです。また、9月を中心に降水量が多くなり、台風も例年よりも発生しやすくなるようです。



4月末以降、全国各地で台風や大雨による被害が相次ぎましたが、折しも9月1日は防災の日で9月は防災月間になっています。防災の日は1923年9月1日に発生した関東大震災を由来にしているそうです。地震はいつ起こるかわからないからこそ、日頃の備えが大切と言われる。残暑とはいえ過ごしやすくなってきたこの時期に、我が家でも防災セットや非常食の点検と見直しをしてみたいと思います。（上地）